

2020/12/31 (コロナ渦の年、大晦日)

(うと Q 世話し 余談 「出る釘」のおはなし)

我が国のことわざに

「出る釘は打たれる」

というのがあります。

出しゃばってはいけません。しゃしゃり出るのもおやめなさい。位の意味ならまだ良いのですが、

最近はどこらかという「見ざる言わざる聞かざる」「触らぬ神にたたり無し」的に解釈されている場合が多いようです。

しかし、その同じ動作を、少し言葉を換えて

「出る麦は踏まれる」

と置き換えてみると、少し良いことのように聞こえる気がします。

つまり

麦の成長(反発力の引き出し)を促すための「麦踏み」のイメージが出てくるからです。

だとしたら冒頭の「出る釘は打たれる」のことわざも、少し前向きに変えて

「出る釘は打たれるが、出たところ勝負でやってみよう」

とか

「出る釘は打たれる。が、成長したいならどんどん打たれよう」

とかに変えてみてはいかがでしょうかね。

或いは

「出る麦は、踏まれてなんぼ、やで」

とか

「出る釘は、打たれてなんぼ、やで」

もありかと。

また、自作ながら自分が気に入っているのは

「子の成長を願う親は、子に嫌われてなんぼ、の商売やで」

でございます。

はずかしながら、相当嫌われておりましたので、自己弁護か自己正当化かもしれませんが、最年末に付、お許しを。

(余談の余談)

そういえば「麦踏み」の話は小学校の国語の時間に教わったことを覚えております。

その当時「踏んづけて伸ばすなんてまるで反対のこと、昔の人は良くそんなこと思いついたな。どうやって思いついたんだろう？気づいたんだろう？」と実に不思議に思った記憶があるので覚えていたのです。

(更に大余談)

外国語でも何でも、単語を覚えるのに、その単語や対象物に何かしらの「感想」を持つと意

外と簡単に覚えられます。というより時間がたっても簡単に「引き出しやすく」なります。
良かったらこの方法、お試しくださいませ。

では、また来年も宜敷お願い申し上げます。

ナマステ別館堂主人 敬白